

尼崎市立中央図書館

としょかんNOW

図書館だより

中央図書館だより No.399
令和6(2024)年9月1日発行
尼崎市立中央図書館
〒660-0826 尼崎市北城内 27 番地
TEL (06)6481-5244
FAX (06)6481-2142

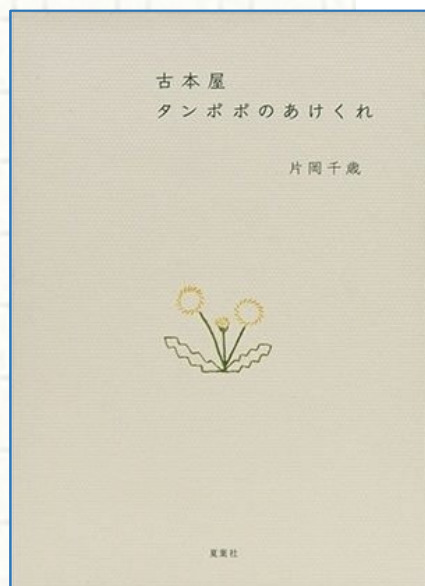


図書館ホームページアドレス
<https://www.amagasaki-library.jp>

※お使いの機種によっては、読み取らないこともあります。
※ご利用のポケット通信料は利用者のご負担となります。

尼崎と作家たち 第55回

片岡 千歳(かたおか・ちとせ)
古書店店主・詩人



1935(昭和 10)年、山形県堀内村(現、舟形町)生まれ。1950 年代、集団就職で森永製菓株式会社塚口工場に勤務し、塚口周辺に暮らす。俳句雑誌「青玄」の伊丹三樹彦氏とも交流があった。1963(昭和 38)年に夫の片岡幹雄とともに高知県高知市で古書店「タンポポ書店」を開店。2004 年に閉店するまで多くの人に親しまれた。詩集に『きょうは美術館へ』『最上川』などがある。2008(平成 20)年、逝去。

作品紹介

「古本屋タンポポのあけくれ」

片岡 千歳/著 夏葉社/出版 2023年復刊

詩を愛する夫婦が高知市ではじめた小さな古書店「タンポポ書店」。生活に根差した文章で日々を綴った随筆集を 2004 年に自費出版。古本好きには知られていたが、発行部数が少なく入手困難の一冊だった。その本が約 20 年ぶりに復刊。新たに「詩のことなど」「昨今古本屋事情」を増補している。



現代の舞台に生きる近松の世界

近松門左衛門は、尼崎にゆかりの深い江戸時代の劇作家です。72年の生涯で100作以上の浄瑠璃・歌舞伎の優れた戯曲を執筆し、「作者の氏神」と称されました。尼崎を拠点に活動する兵庫県立ピッコロ劇団が創立30周年を迎えたことも記念し、近松にまつわるさまざまな演劇・舞台作品の台本・ポスター・プログラムなどの資料を中心に展示します。また、貸出できる関連資料として「近松門左衛門」や「現代演劇・舞台」についての本を集めました。どうぞご覧ください。

期間：8月30日(金)～10月30日(水) 場所：2階 エントランス

絵本・手あそび DE コミュニケーション！

絵本の選び方や楽しみ方、絵本を通したコミュニケーションについて手遊びをまじえながら、楽しくお伝えする講座です。どうぞお気軽にご参加ください♪



【日 時】9月25日(水) 11:00～11:45

【場 所】園田西生涯学習プラザ 2階和室

【対 象】2歳までのお子さんとその保護者、妊婦(パートナーの参加も可)(先着10組)

【講 師】「ハートフリー」の皆さん

【申 込】専用の申込フォーム または

中央図書館カウンターへ直接お申込みください。

受付：9月5日(木)午前9時～9月24日(火)

(9/24(火)は休館日のため Web 申込のみ受付します)

お申込みは
こちらから！



中央図書館100周年記念事業

みんなのおすすめ本
数珠つなぎ

第47回

尼崎市ゆかりの方々に、愛読書・おすすめしたい本を紹介いただき、読書の輪を広げるリレー企画です。
桂 弥太郎さん(落語家・みんなのあま咲き放送局パーソナリティ)から推薦された次の方は…

かつら きちや

桂 吉弥 さん (落語家)

『鉄道員 (ぽっぽや)』 浅田 次郎／著

(集英社 2000 年刊)



関西には60年無かった落語専門の寄席(よせ)が、大阪の繁昌亭、動物園前の動楽亭、神戸新開地喜楽館、と今は3つもある。

日々寄席で、落語は磨かれていく。

私は寄席に出るのも、見るのも大好きだ。東京の寄席ではチケットを買って客席に座る。

この短編集を読んだ時に前座からトリまで名人が八人並んだ、最高の寄席体験をしたようだった。

八本とも、感情が溢れ出る極上の人情噺。

最初の「鉄道員」も素晴らしいが、特に二本目、「ラブ・レター」にはやられた。

私が今までで一番泣いたはなし、である。

レファレンス室から

～新刊紹介～

『白髪一雄 講演会の記録 1985～2001年』

(生田博)2018年11月発刊

尼崎出身の抽象画家・白髪一雄生誕100年の節目を迎え、さまざま記念事業が開催されています。この本は、生前の白髪一雄の講演会での録音を教え子である生田氏が書き起こしたもの。具体的な創作の過程や作品について、昭和時代の尼崎や関西の現代美術界の様子がうかがえる貴重な記録となっています。

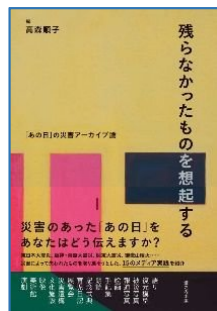
この資料は、3階レファレンス室で
ご覧ください。貸出はできません。

3階レファレンス室では調べもののお手伝いをします。遠慮なくお声がけください。

こんな本 入りました

『残らなかったものを想起する 「あの日」の災害アーカイブ論』

高森 順子／編（堀之内出版）



巨大災害が頻発するこの国では、防災、減災、命の大切さといった「アーカイブ」が作られ続けている。しかし、残すべきとされるものは、ほんのひと握りでしかない。多様な手法で、「残らなかったもの」を留めたり、取り戻したりするユニークな15のメディアの実践を紹介。

『息のかたち』

いしい しんじ／著（講談社）



ひょんなことからひとの「息」が見えるようになった京都の高校生、夏実。突然の休校や陸上大会の延期、急なモテへの戸惑い、そして受験と進路…。コロナ禍であっても夏実の日常は息づき、輝く。そこに、息はある。気に留めるか、留めないか、そのちがいがあただけ。

こんな質問がありました！

“ペアレント・トレーニング”
についての本を探している。



『保育学用語辞典』(中央法規出版)によると

「ペアレント・トレーニング」とは、日本では主に発達障害児の保護者へのより良い養育技術を学習するための専門的支援を指すようです。

厚生労働省ウェブサイトでは、日本発達障害ネットワーク作成によるマニュアルやガイドブックが公開されています。また『発達障害のある子と家族の支援』(学研プラス)、『発達障害の子の育て方がわかる!ペアレント・トレーニング』(講談社)『発達障害と家族支援』(学研)などの貸出可能な所蔵資料が見つかりました。

～一般室の本棚から～



『チームラボ無限の連続の中の存在』

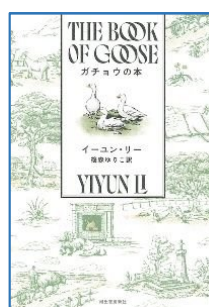
姫路市立美術館／企画（金木犀舎）



最新のテクノロジーを駆使し、日本で数多くの展示をおこない、多くの観客を動員しているチームラボ。常にアップデートしている彼らの作品は、今、新たなステージへ。建築家、生物学者、哲学者など、各分野の第一人者たちがチームラボのアートをあらゆる方面からひもとく論考集。

『ガチョウの本』

イーユン・リー／著 篠森 ゆりこ／訳
(河出書房新社)



第二次世界大戦後のフランスの片田舎。13歳のアニエスは作家として華々しくデビューした。本当の作者は親友のファビエンヌ。2人の小説を書くという「遊び」は周囲を巻き込み思いもかけない展開に。

9月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

開館時間 **9:00~20:00**

※  印は休館日です。

※  囲み(日・祝)の開館時間は **17:15** まで。

朗読の会 おはなし玉手箱

日時 9月10日(火) 午後2時~3時
(毎月第2火曜日)

場所 1階セミナー室

読み物 「帰ってきたナチ」 水上 美佐雄/作
『10分で読める物語 5年生』より

ほか2篇

※次回は10月8日(火)です。

◆おはなしの会

14:10~14:25 子ども(0~3歳くらい)と保護者

14:30~14:50 4歳くらい~小学生と保護者

14:55~15:15 小学生

●コアラくらぶ

11:00~11:30 0~3歳と保護者

【お知らせ】

北図書館は空調設備故障のため、当面の間臨時休館しています。開館状況は変更になる場合があります。ご理解、ご協力をお願いします。

みんなで楽しもう！

バリアフリー映画会

日本語字幕や音声ガイドをつけることで、目や耳が不自由な方などより広くたくさんの方が楽しめる上映会です。

「梅切らぬバカ」(77分)

9月27日(金)14時~15時30分

監督：和島 香太郎 出演：加賀 まりこ、塚地 武雅 ほか

【場所】中央図書館 1階 セミナー室

【対象】尼崎市立図書館の貸出券を持っている方

当日先着 40名(貸出券をご持参ください)

担当者のつぶやき

先月、宮崎県で震度6弱の揺れを観測し、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表されました。地震への備えを改めて確認してほしいとのことでしたが、近隣のスーパーにお米と水が売ってなくて焦りました。日頃の備えが大切ですね。(M.Y)



10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		